



上級救命講習

上級救命講習を受けました。

上級救命講習を受講すると、技能認定証がもらえます。この講習で身につけられるスキルは、災害やトラブルで負傷者が出た場合でも焦らずに対応できるようになるので、心構えができるといえます。更新も必要な資格で、常にスキルを高めていくことが可能です。ちなみに有効期限はありませんが、3年ごとの更新が必要な資格で、スキルを維持していくことが大切です。

私達スポーツ推進委員は、さまざまなスポーツの行事に従事しているため、努めて全員が技能認定証を持つようにしています。

今年度は、江戸川消防署で、7月31日に14名が新規として、9月4日に再講習で11名が受講

しました。

講習会で学んだような緊急事態が起こらないことが一番ですが、私たちがこのような知識・技能があることを知っていただいたことで、参加者がより安心してスポーツを楽しんで頂けると幸いです。



第43回江戸川マラソン大会 区制90周年記念大会

2022年10月23日(日)に区制90周年記念大会である第43回江戸川マラソン大会が江戸川区陸上競技場で、晴天の中、行われました。

新型コロナウイルスの影響で、3大会ぶりの開催で、感染症対策をしながらの初めての大会だったため、不慣れなことも多かったですが、参加者の方々のご協力により、滞りなくおこなわれ、感謝しております。

マラソン大会の参加者の中には、はるばる遠くから参加される方もいました。

一般50歳以上の方々には、足は止めても最後まで頑張してほしいと応援をしていました。

親子レースは心温まる光景でした。ゴール前ではお父さんがお子さんに「もう少しだけがんばれ!」と声をかけたり、逆にお子さんが親に対して「もう少し、もう少し!」と応援したりしていました。

このような熱い気持ちになれた素晴らしい大会でした。

このマラソン大会での経験をさまざまなスポーツイベントに取り入れ、より良く安全で楽しめるスポーツイベントを開催していきたいと思

います。



編集後記

2020年春からの新型コロナの影響で中止が相次いだ状況から、感染対策を行いつつ、昨年秋から徐々にスポーツイベントが再開されてきました。

スポーツ推進委員として、研修会や講習を受講し、再開されるイベントに向けて知識や体験を深めてきました。感染状況も一進一退ですが、対策をおこな

いつつ、皆さんが待ち望んでいるスポーツイベントを安全に開催できるように工夫をしていきます。

(広報部 尾形 和昭)



江戸川区スポーツ推進委員会は、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現に向けSDGsに積極的に取り組んでいます。

みんなのスポーツ Sports Vol. 110

第110号 令和5年1月19日 編集：江戸川区スポーツ推進委員会 発行：江戸川区 江戸川区中央1-4-1 ☎03(5662)1636

会長あいさつ

あけましておめでとうございます。



江戸川区スポーツ推進委員会
会長 平野 秀夫

昨年は依然としてコロナ禍の影響が続く一年となってしまいました。そのような中でも秋ごろから少しずつ日常を取り戻してきたのではないのでしょうか。江戸川区もマラソン大会、パラスポーツフェスタなどがわ、カヌー・スラローム大会、ポッチャ大会などいくつかのスポーツイベントが再開されました。私達スポーツ推進委員も3年ぶりに区民の皆様と触れ合うことができ嬉しく思っています。

また、昨年10月1日には令和4年度東京都スポーツ推進委員「広域地区別研修会(第5ブロック)」をタワーホール船堀にて開催しました。江東区、足立区、墨田区、葛飾区のスポーツ推進委員の方々にお越しいただき、「SDGsとスポーツ」をテーマに研修会を行いました。

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」から一年が経ちました。多くの試合が無観客で行われたことはとても残念なことでしたが、多くのアスリートが躍動し活躍する姿に心から感動する日々でした。

また、東京でパラリンピックが開催され、様々なパラスポーツを、初めて観戦された方も多かったのではないのでしょうか。現在、パラスポーツに対する関心は、今までにないくらい高まっていると思います。

本研修会は二部構成となっており、第一部はパラ卓球日本代表の渡邊剛選手をお招きし、「東京2020大会以降の日本社会におけるパラスポーツの意義」というテーマでご講演いただきました。ご自身の経験から感じた世界におけるパラスポーツの現状と日本の課題についてお話いただきました。また、共生社会実現に向けたパラスポーツの有効活用というテーマになかでは、障害者と健常者が一緒にパラスポーツを行うことが、共生社会の実現に向けての第一歩になるとおっしゃっていました。今後私達が活動を進めていくうえで非常に参考になる講演でした。

第二部は今回のテーマとして取り上げている「SDGs」に関して、本区のSDGsへの取り組みをご紹介させていただきました。続いて「各区のパラスポーツへの取り組み」を報告していただきました。今回初めて知ることも多く、大変有意義な情報交換を行えたと思います。

過日行われた第1回区長杯ポッチャ大会では老若男女、車いすの方、様々な方が一緒にポッチャの技量を競い合いました。スポーツを通じて、共生社会の実現のため、様々な学びのある大会だったと思います。ご興味をもたれた方はぜひ第2回ポッチャ大会へご参加ください。お待ちしております。

～江戸川区スポーツ推進委員会よりお知らせ～

Twitterアカウント を開設しました。

右記のQRコードまたはユーザー名  @edogawa_suposui から

簡単にアクセスできます。ぜひ、ご覧ください。



令和4年度 東京都スポーツ推進委員研修会広域地区別研修会 ～第5ブロック～

令和4年10月1日(土)タワーホール船堀にて、研修会を開催いたしました。この研修会は、年に1度、第5ブロックのスポーツ推進委員が参加し、資質向上を図るとともに、広域的な連携協調を図り、必要な地域スポーツ振興のあり方を考えることを目的としております。テーマは、「SDGsとスポーツ」です。

講演会

「TOKYO2020大会以降の 日本社会におけるパラスポーツの意義」



渡邊 剛選手(パラ卓球 日本代表)

東京2020パラリンピック後、我が国の障害者、障害者スポーツへの関心は低下、バブル崩壊を起こすのではないかと危惧していた。しかし現在、パラスポーツは障害者だけのものではなく、障害者の社会進出も拡大しつつある。とはいえ、パラスポーツ先進国のような**障害者が日常的にスポーツに取り組める環境作り、パラアスリートへの手厚い支援については、日本はまだ道半ば。「今」が大切である。**

パラスポーツは障害者だけではなく、健常者も一緒に取り組むことが重要。一緒に行うことで両者の距離は小さくなり、互いに手を取り合っって同じゴールに向かうことができる。特に子どもの障害者は、健常者と一緒に活動することで自信がもてるようになる。障害者と健常者が一緒にパラスポーツを行うこと、**パラスポーツに健常者を巻き込むことが、共生社会実現に向け**

での第一歩となる。スポーツ推進委員にはその一翼を担う大きな役割がある。

会場参加者への意識調査でも「障害者と触れ合うことに不安を感じる」方が多い現状が見られるが、**障害者に何かしてあげなくてはと考えるのではなく、普通に接してほしい。**教育の必要性も感じている。「**パラスポーツは障害者のためのスポーツ**」という概念を超え、**みんなのために、社会のために活用していくことが大切**である。

渡邊剛選手プロフィール

フランス料理の道で生きる夢をもっていたが、事故で脊髄を損傷、車いす生活に。車いすマラソン選手になっていた同級生の「パラリンピックの選手村で会おう。」の言葉に触発され、学生時代にやっていた卓球を再開。世界でも活躍している。

パラ卓球渡邊剛選手の、「障害者となった自分は不幸だとは思っていない。パラ卓球に取り組むことで自分の可能性を見出すことができ、幸せな人間だと思っている。これこそがスポー

ツの魅力だ。」という力強い言葉が印象的でした。

私たちスポーツ推進委員の今後の活動に示唆をいただき、素晴らしい講演でした。

本区のSDGsへの取り組み

江戸川区では「ともに生きる共生社会」を実現するためSDGsを推進しています。しかし、SDGsを知らない方も多く、認知度をどう上げるかが課題でした。

そこで、江戸川区SDGs推進部ではSDGs推進センターの開設やSDGs推進月間の開催、ラグビーチーム「クボタスピアーズ」との連携協定

などを通して周知活動を行っています。その結果、令和2年に約48%であった認知度が令和3年には約80%まで上がりました。

今後は「SDGsえどがわ10の行動」を掲げ、区民がSDGsを身近なものとして捉え行動できるように取り組んでいく方針です。

他区のパラスポーツへの取り組み

<江東区>

- 平成28年度、障がい者スポーツ指導員の資格取得済の委員をメンバーとして「シニア・パラスポーツプロジェクト」を新設。令和元年度には名称を新たに「パラスポーツ部」として活動を開始。
- 主なパラスポーツ事業として、区民障害者体力テスト、パラスポーツの日記念イベント、みんなでスポーツフェスタ、障害者スポーツ体験、全区ポッチャ交流大会(Kotoポッチャ2022)等を開催。

<足立区>

- アジア圏初の「スペシャルライフコート」を活用して、月2回程度パラスポーツ体験会を開催するなど、パラスポーツ活動の推進。
- 毎年2月はパラスポーツ推進月間として、パラスポーツフェスティバル等を開催。
- 「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」を区が例年主催し、パラスポーツを支える人材を育成。

<墨田区>

- 将来「墨田ポッチャ」の独自開催に向けて、ユ

ニバーサルポッチャに力を入れて、各種イベントで体験会の開催等を推進。

- スポーツ部門、福祉部門、医療部門が連携して「墨田区障害者スポーツ推進協議会」を立ち上げ、障害者スポーツ推進のための事業を企画、実施。
- 例年10月に、各障害者団体、福祉作業所等の利用者及びその家族が参加する運動会型レクリエーション大会を「障害者(児)スポーツ・レクリエーション大会」として開催。

<葛飾区>

- 葛飾区では平成26年からポッチャの普及、発展に向けた取り組みを始め、ポッチャ指導員養成講習会やレクリエーションポッチャ体験会をスタート。健常者と障害者が一緒にゲームで競うことができるポッチャ交流大会を開催。その後、スポーツ推進委員協議会OB、OGを中心に、葛飾区ポッチャ協会を発足し活動を継続。
- 毎年、「障がい者スポーツ指導員養成講習会」を開催し、障害者をサポートする指導員を育成。

本区のパラスポーツへの取り組み

- パラスポーツの先進国であるオランダのホストタウンとなり、オランダのパラリンピアン等と交流を行う「Game Changerプロジェクト」を開始。
- 「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得者に「えどがわパラスポアンバサダー」を委嘱。
- オランダの取り組みを参考にし、障害者が定期的、継続的に運動できる教室として「オランダクラブ」を発足。
- 令和4年度「障害者スポーツ係」から「パラスポーツ係」に名称変更。

- 全区立小学校(69校)にポッチャセットを配布。

